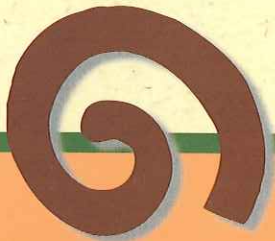


キ ン マ カ モ カ の 変



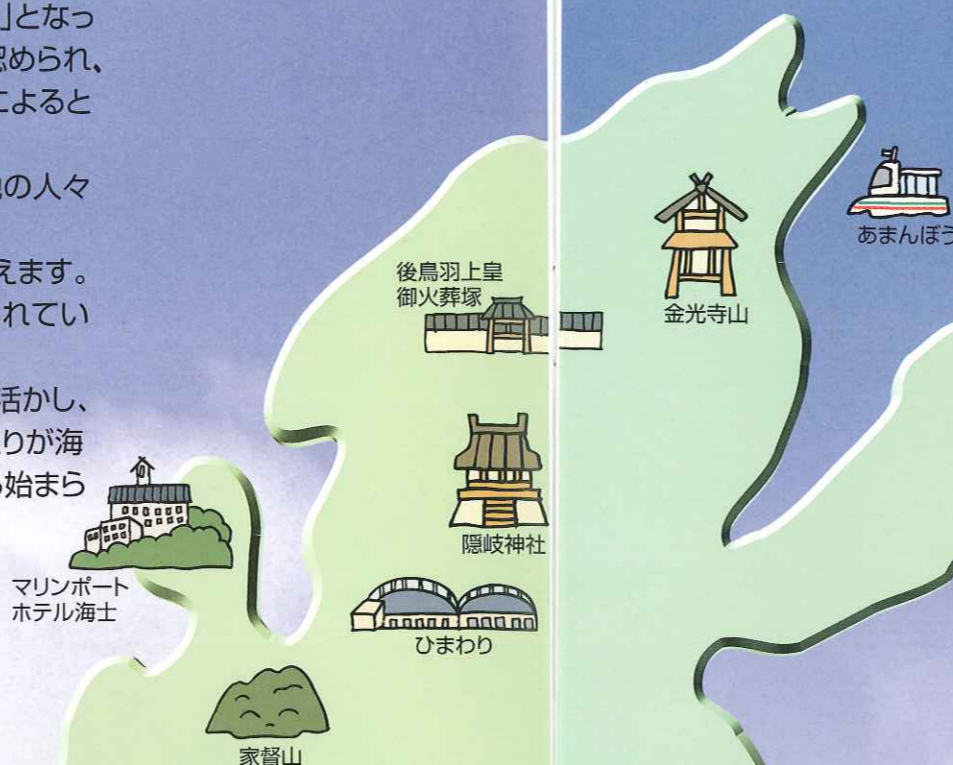
はじめに

古来、この地に住む人々は、船で海を縦横に駆け巡り、漁労・海運にたずさわる独立心の旺盛な海の民でした。もともと「海部」と書かれていた地名が「海士」となったのは、一説に後鳥羽上皇への忠勤や後醍醐天皇の隠岐脱出への貢献が認められ、当時の代官所役人によって海の士(ものもの)という字が与えられたことによるともいわれています。

こうした説が語られる背景には、海を通じて外部と対等に渡りあうこの地の人々の誇りと、一島一村の団結力があつたに違いありません。

時は流れ、かつての海の士の精神は、表面上影を潜めてしまったかに見えます。しかし、本来の海士人の独立心は、一人ひとりの心の奥に今も脈々と伝えられているに違いありません。

「キンニャモニャの変」とは、キンニャモニャに象徴される海士の個性を活かし、未来へ向けて町を変革していくことです。そしてその変革は、住民一人ひとりが海の士の心を取り戻し、自分たちこそがまちづくりの主役と意識することから始まらなければならないのです。



1 自然

美しい海、島の風景や景観を守るため景観保全に取り組もう。



2 歴史

「史跡のまち」といわれてるけど、お客さんに説明のできる人が何人いるのかな～。
町民総ガイドのまちっていいなあ～。



3 漁業

獲るだけの漁業から楽しめる漁業へ～。
やわらかいお布団と大敷の朝食。
最高のおもてなしだね。



4 農業

つくるだけの農業から楽しむ農業へ～
潮風を感じながらの稲刈体験や牛の世話。
島のグリーンツーリズムはひと味ちがうでしょ。



5 特産づくり

海士の海の幸、大地の恵みを私たちが手でさらにおいしく!
町民みんなの食卓へ、町外のみなさんの食卓へ、キンニャモニャ印のおいしさをとどけます。



6 カレッジ開校

無人島の冒険やダイビングでグランブルー体験、和歌の創作で宮廷気分もアリ。
島全体をステージにカレッジ開校します。



7 朝市

島の朝市は鮮度抜群!おいしくて安全な海士の恵みの数々をご賞味あれ。



8 健康

きれいな景色とのんびりした時間、朗らかなひととの出会い…。
海士はみんなが集まる21世紀型健康アイランドを目指します。



町長あいさつ

21世紀を迎えるにあたって、わが国の社会・経済は、大きな転換期に直面しています。バブル景気からその崩壊、そして長期化・深刻化の度合いを強める平成不況への変化、新しい日韓漁業協定交渉の進展、産業構造の転換と高度化の進展、高度情報化の進展、国際的な環境意識の高まり、国際社会の本格化、少子・高齢化社会の到来、女性の社会進出機会の増大など、さまざまな分野でかつて経験したことのない大きな変化がすでにはじまっています。とりわけ、経済環境の悪化、阪神淡路大震災に代表される大災害の経験、環境問題への関心の高まりなどは、人々の指向を開発中心の「成長指向」から開発と保全の調和を考える「持続指向」へと変化させつつあります。

一方、国においては、こうした大転換時代を開く国土政策として、「地域の連携・自立による多様性に富んだ分散型国土の形成」を政策課題とする「新しい全国総合開発計画」が策定されました。

本町においては、平成元年に「クオリティー・ライフへの出発」をテーマとする第二次海士町総合振興計画を策定し、マリンポートホテル「海士」の運営開始、海中展望船「あまんぼう」の建造、海洋レジャー拠点の整備など海と交流をテーマとする取り組み、保健福祉センター「ひまわり」の整備などを進めてきました。

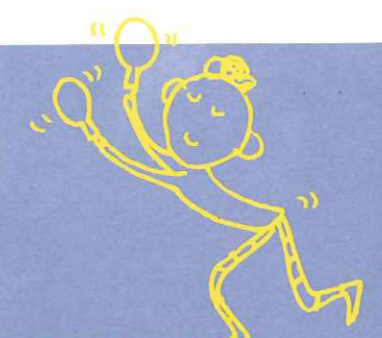
これらの施策が一定の成果をおさめる一方で、若年層の人口流出と少子・高齢化の急速な進展、地域産業構造の転換など新たな課題が生まれてきています。この新たな課題を乗り越え、ここに住んでいる人たちがこの地を愛し、豊かで愛着と生きがいのもてる暮らしを続けていくため、新しいまちづくりが必要になっていきます。

「第三次海士町総合振興計画」は、こうした時代の転換期を拓き、これまでの各種事業や施設を最大限に活かすとともに、伝統文化や郷土芸能等といった「ふるさと」の貴重な財産を活かした新たなまちづくりを進めるための指針として策定しました。

平成11年3月

海士町長 石倉 郁郎





本町では、第二次海士町総合振興計画の実施によって、地域の基盤整備は大きく進展しました。第三次海士町総合振興計画では、これらを活かし、産業や文化など住民生活への波及効果を生み出すための取り組みを進めていくことが強く求められます。そのためには、施設間の連携の充実、地域に活かす事業展開が不可欠です。

また、「第三次海士町総合振興計画」の実施期間に、社会・経済・行財政などあらゆる分野で大きな変化が予測され、町を取り巻く環境が一段と厳しくなると考えられます。

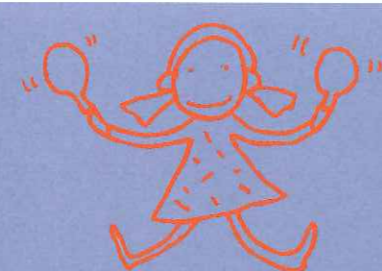
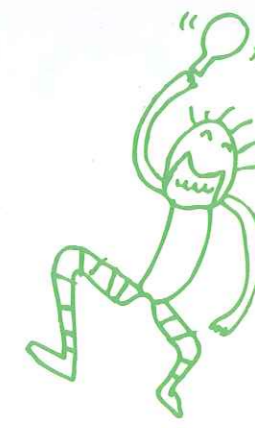
1999春一。

「キンニャモニャの変」が始まった

こうした状況を踏まえ、地域の生き残りをかけた大競争時代を生き抜くため、本計画の努力目標を「自らが汗を流して、わが町の自慢になる顔を作ろう!」とします。そのうえで、本町に受け継がれてきた民衆の芸能である“キンニャモニャ”にこだわり、その歌詞に秘められている「美しい海士の自然への想い」「島民の豊かな人情」といった海士の心と努力目標を重ねあわせ、本計画のテーマタイトルを「キンニャモニャの変」とします。

“変”の意味には、これからの海士町を創っていくために「ものの見方」「ものの考え方」など、あらゆる面で変わっていかねばならないという気持ちが込められています。私たちは、良い意味での変化と創造を求めています。

単なるこれまでの延長では、大競争時代を勝ち抜ける魅力ある海士町を築いていくことは難しい時代状況となっています。本町に住む一人ひとりがいつまでも快適に暮らすことができ、満足できる町へと変わっていくために、私たちははじめの一步を踏み出さなくてはなりません。海士町は、行政・住民みんなの行動で「キンニャモニャの変」を起します。



海士町の目指すまちづくり:[事業展開フロー]



きよが機おりゃ キンニャモニャ
あぜ竹へ竹
殿に來いと の キンニャモニャ
招き竹 キクラゲチャカボン
持って來いよ

みんなが汗して働いて「いいところだから来て下さい!」と招いている海士町はどんなところでしょうか!?

海士町発祥の隠岐民謡「キンニャモニャ」には、本町の自然と文化人情が上手にうたい込まれています。

そこには私達が忘れかけていた「生き抜く術」が秘められています。

「キンニャモニャ」の唄に様々な願いを織り込み、第三次海士町総合振興計画の基本的な考え方を「キンニャモニャ宣言」として次のように掲げます。

海士の港に キンニャモニャ
歌声すれば
老いも若きも キンニャモニャ
踊り出す キクラゲチャカボン
持って來いよ

海士町の誇りは、豊かな自然と先人達の作り上げた風土の中で、みんなが仲良く元気に、強くたくましい半農半漁の生活をしてきたことです。

そうした暮らしは、健康で長い人生をいきいきと過ごすことのできる環境を育んできました。

しかし、それだけではこれからの厳しい時代を生き抜いていけません。生き残りをかけ、まちの自立を目指していかなくてはなりません。

そのためには、海士の良さをさらに高め、町外に向けてアピールし、海士町の存在意義をはっきりと打ち出すことが求められているのです。

山と海の両方から恵みを受け、自然と共に生活するすばらしさをかみしめ、老いも若きもキンニャモニャを歌い、踊り、健康や豊作や大漁を祝い、感謝する町。

そんなまちづくりを目指しましょう。

高い山から
谷底
ウリやなすびの
花ざかり
持って
キンニャモニャ
見れば
キンニャモニャ
キクラゲチャカボン
來いよ

海士町は、ありとあらゆる漁場から豊富な海の幸に恵まれ、山と海の両方から恵みを受け、自然と共に生活してきました。

農作物ができる農地と、天然の良港、まれ、山と海の両方から恵みを受け、た。

丸い玉子も キンニャモニャ
切りよて四角
ものも云いよて キンニャモニャ
角が立つ キクラゲチャカボン
持って來いよ

私たちは、島では当たり前なのが都会では味わえない魅力であるということに気づきました。私たちの発想を転換することにより、海士町の魅力をさらに引き出すことが可能なのです。もう一度地場を見直し、島の特性を活かしましょう。

キンニャモニャ宣言

この取り組みを支える町民の合い言葉は「キンニャモニャ」の離子ことば「キクラゲチャカボン持って來いよ」です。古老の話によれば、この離子ことばは、「キクラもチャカからもちよつとこいよ(キクさんもチカさんもみんな來いよ)」という意味と伝えられます。

あらゆる人々との間でさまざまな交流を進め、新しい海士町づくりに行政と住民が力をあわせて取り組みましょう。

「人は海士を訪ね、交流を重ねて海士を好きになり、この地を求めて暮らしはじめる。」

そんな願いをこの離子ことばに込め、私たちの取り組みは歩みをはじめます。

世にも珍らし
唄えや
苦勞忘れて
酔うほどに
持って
キンニャモニャ
おどれ
キンニャモニャ
キクラゲチャカボン
來いよ

私たちが目指すまちづくり。それは、「世にも珍しいキンニャモニャ」のまちづくりで人々が訪れ、住民とともに労わすれて酔うほどに「」するまちづくりです。

住んでいる人が生きがば、また、地域を愛し、地域たくさんいれば、そのことごとくでしょう。

そして、一度訪れた人てくれるようになるはず

あり、その魅力にひかれた、たくさんの「キンニャモニャ」を「唄えや踊れ苦顔の見える交流を深めることのできる

いをもっていきいきと暮らししていれば、その素晴らしさを多くの人に伝える人がに魅力を感じて、海士町を訪れてくれる

の多くが、きっと何度も海士町を訪れです。

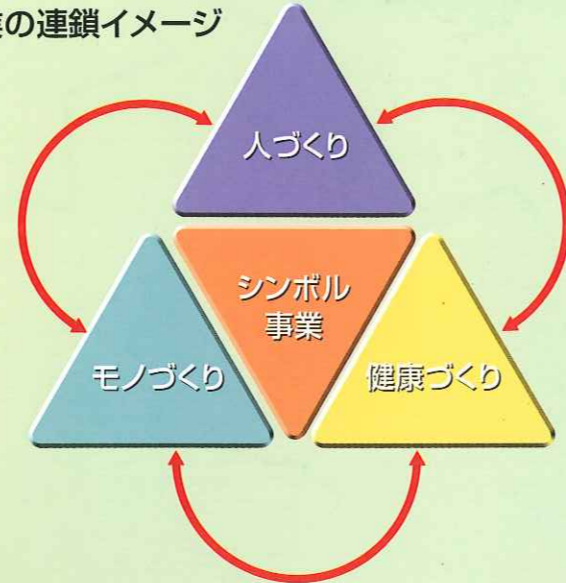
とどけとどけよ キンニャモニャ
末までとどけ
末は鶴亀 キンニャモニャ
五葉の松 キクラゲチャカボン
持って來いよ

私たちがはじめる海士の心を伝えるこの取り組みは、子供たち、さらにその次の世代へと継承していかなくてはなりません。その心と取り組みは、未来の海士の担い手を創り、限りない生命力を持った大きな木へと成長し、豊かな実りをもたらすはずで

シンボル事業

町民みんなの力と知恵で、我がまち海士を変えていこうと思います。それは、海士らしい人づくり、海士らしいモノづくり、海士らしい健康づくり。ただ新しいものを取り入れることではなく、誇れる自然と歴史と文化を活かして“海士らしさ”を追求することです。どこの町とも似ていない新・海士創りを、町民みんなて始めましょう。

■シンボル事業の連鎖イメージ

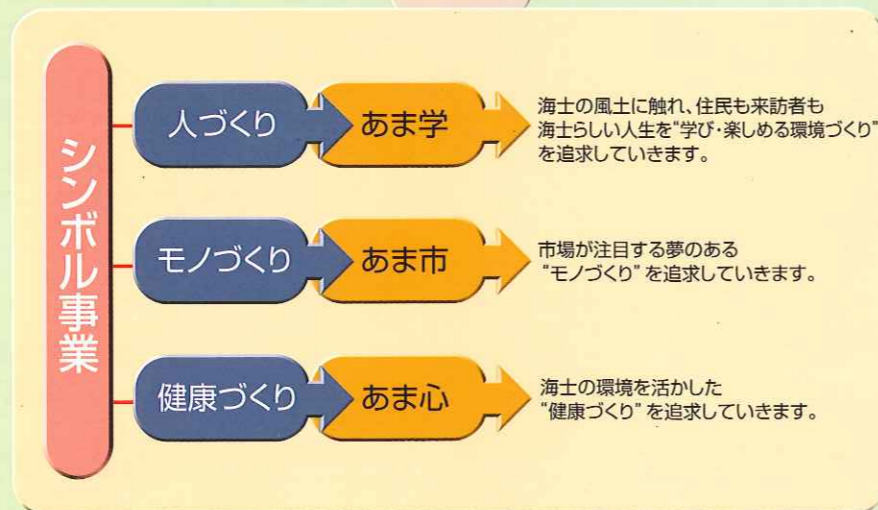


シンボル事業となる3つの方向性は、それぞれが単独でまちづくりに機能してだけでなく、相互に連携し、総合的にものごとを考えていくことを可能にする取り組みとして機能するものです。

具体的事業【重点施策】

シンボル事業の骨格

シンボル事業の基本方向「人づくり」「モノづくり」「健康づくり」の3本柱を「あま学」「あま市」「あま心」として具体化し、それぞれの重点施策を講じていきます。



シンボル事業「キクラゲチャカポン計画」

シンボル事業の総称は「キクラゲチャカポン計画」としました。これは、「キンニャモニャ」の囃子ことば「キクラゲチャカポン持って来いよ（キクさんもチカさんもみんな来いよ）」に表現された交流の風土とこれからのまちづくりのテーマとを重ねあわせ、「海士でなくては味わえない、個性的な交流を進めたい」との思いを込めたものです。

シンボル事業は、以下の事業を核として展開します。

プロジェクト1.

カレッジ開校事業

海士の暮らしの中で生まれ、伝えられてきた技術や文化は、訪れる人々に感動を与える私たち町民の財産です。だから、このまちの素晴らしさを再発見・新発見して、町内外の人々との交流の環を広げるために、あらゆる海士の達人を育てようと思います。きっとそこには、海士町を知る喜びとともに、新しい自分自身の発見があるはずです。

あま学

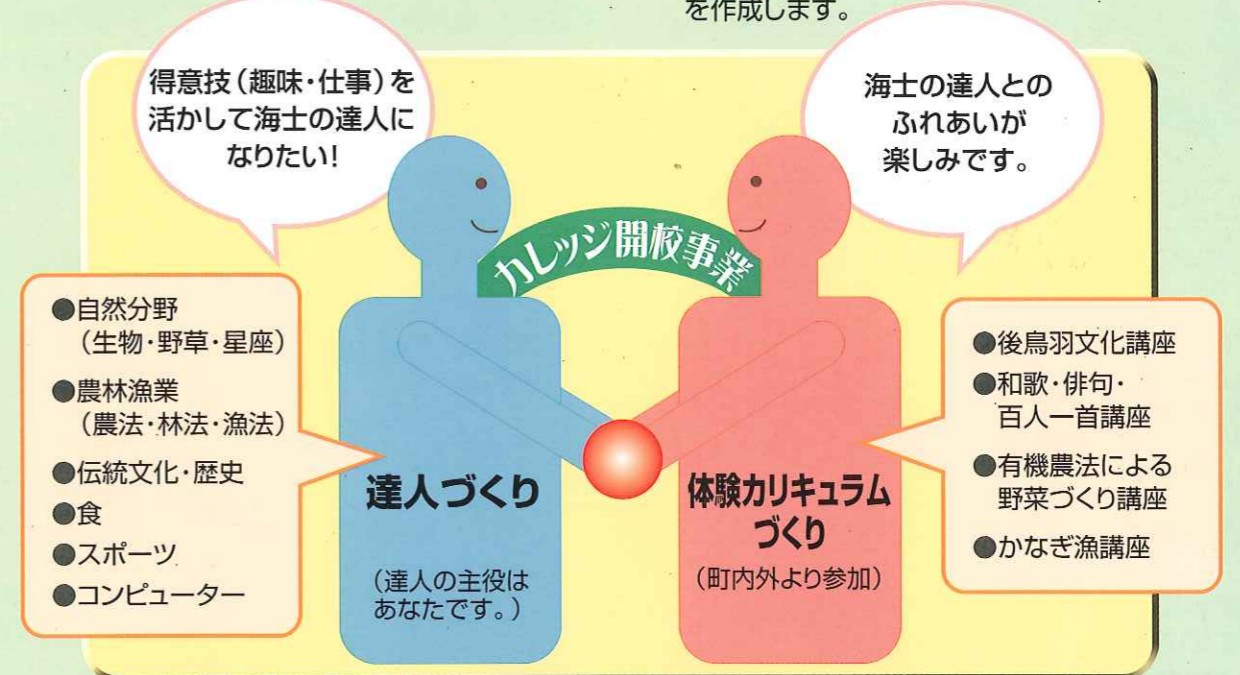
住む人、訪れる人の誰もが心身共に元気になれる海士づくり。海士の良さを学び、体験し、心を休め、爽快な気持ちになれる事業として、島の生活体験や技術の会得などを通して、交流を深めるあま学「カレッジ開校事業」を推進します。この事業は、以下の取り組みによって構成します。

あのもんだわい事業 (達人づくり)

海士の達人づくりを推進し、体験型交流事業の基盤となる人材育成を図ります。

人材を育てる 体験カリキュラムづくり

海士の歴史・文化・生産の資源や土地の資源を活かした学びの体験カリキュラムを作成します。



この他、海士町の自然や地場産品の素晴らしさのPRに努め、住んでいる人が自慢できる「ふるさと海士」の意識高揚など、啓発活動にも力を入れていきます。こうした事業を通して、何よりもまず、この町に住んでいる人たちの「ものの考え方・見方」が変わることが必要と考えます。



プロジェクト-2.

キンニャモニャブランドづくり事業

私たちが普段あたり前に抱えている自然が、町外の人にとっては新鮮な驚きだったりします。だから、海士の自然の素晴らしさを、より大勢の人々に発信しようと思います。食べておいしい自然一、見ておいしい自然一、体験しておいしい自然一。この海士の自然を町民みんなの誇りとして、愛し、守り、育み、海士ブランドにするのです。

あま市

市場から注目され、海士ならではの夢のあるモノづくりの実現に向けた取り組みを進めます。モノづくりを生産品や製造品だけでなく、自然景観づくりや体験のできる環境づくりなども広義の「モノづくり」ととらえた斬新な発想で、次のようなブランドづくり事業を展開することとします。



朝市事業

本町で採れる野菜や魚貝類は、美味くて安全性の高い良質なものです。

しかしながら、町内で販売・消費されている店頭品の大部分は、島外からの仕入れ品に頼っている状況です。

海士らしい食を追求していくためには、地場産品の地元消費を推進していく必要があります。

このため、地場産品の良さを再認識できる「朝市」の規模拡大と定期開催化を図り、「つくる・売る・買う」による地域内善循環体制の構築を目指します。

また、「朝市」は地元消費者に限らず、観光客など、海士を訪れた人にとっても魅力ある市を目指し、海士の良質な品物を広く紹介するとともに、「ものをとおした交流」を推進します。

特産品開発事業

①生産・製造

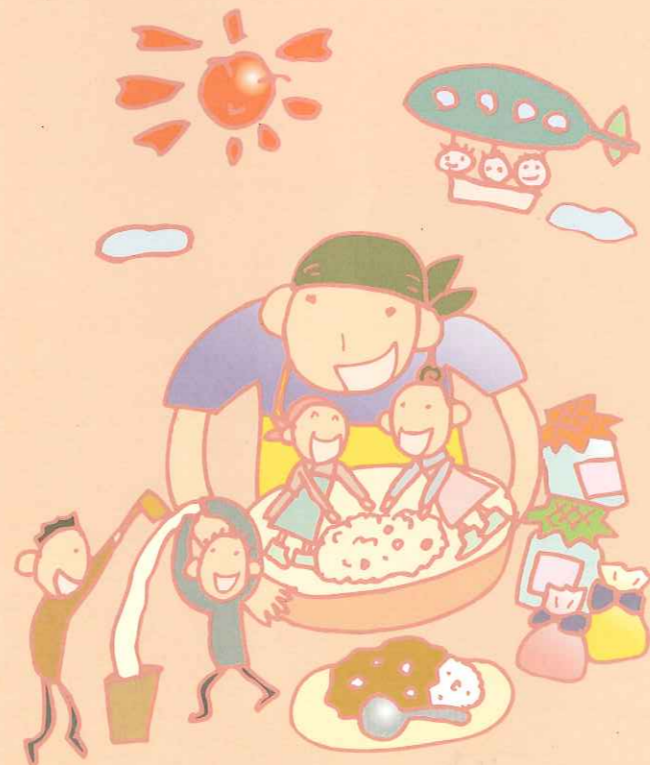
特産品の開発は、素材の発掘や商品の開発とともに、安定供給を可能にする原材料の確保や加工作業などにおいて一定の労働力を必要とするものであり、波及効果の大きな産業振興策といえます。

そこで、本町の良質な地場産品を使い、価値の高い特産品の開発に取り組むこととします。事業展開にあたっては、調査・検討を進める機関や庁内体制の整備を図り、推進体制を確立することとします。商品化を行った後は、位置づけの確立、生産力向上の必要性などを勘案した上で、基盤となる施設の整備についても検討し、事業規模の拡大を図っていきます。

②キンニャモニャを活かしたイメージ戦略

海士町民の大多数が踊れる町発祥の民謡「キンニャモニャ」を活かしたイメージ戦略を展開し、商品のブランド化や販売促進に役立てます。

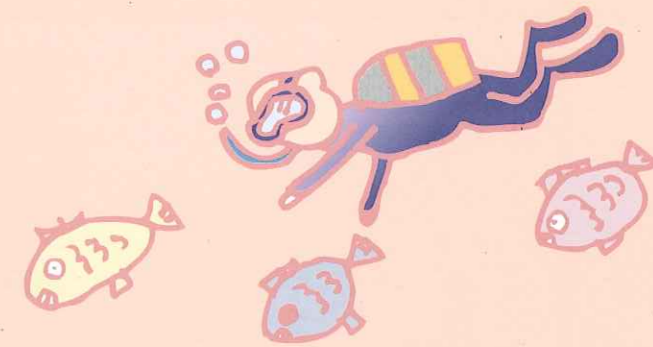
また、キンニャモニャを前面に出した祭りの開催、キンニャモニャグッズの作製、キンニャモニャキャラクターの図案化など、いつでも誰でも簡単に踊れるキンニャモニャをPRし、観光資源としても有効活用を図ります。



体験型観光システムづくり事業

本町の豊かな自然を活かした島の季節感を味わうイベント、休耕農地を利用した収穫の喜びを味わえる農業体験イベント、和歌や俳句をテーマとするイベント、観光漁業の実践など、海士の自然・産業・文化をはじめとする豊富な資源を活用した体験型観光システムの確立を目指します。

また、あま学「カレッジ開校事業」をととして育成を図る事業の担い手の受け皿となり、育成の場と活用場の連携体制をつくっていくこととします。



自然景観保全事業

日本海の波がもたらした奇岩や海岸線の美しさや山頂からの眺望など、海士には、他地域の人々に誇れる豊富な自然景観が守られています。また、島としては珍しい稲ハデのある農村風景をみることができます。このようないにしえから受け継がれてきた自然景観や産業景観を保全するため、景観保全地域の選定を行うほか、土地利用の規制なども検討しながら、海士らしい自然景観の保全に努めます。



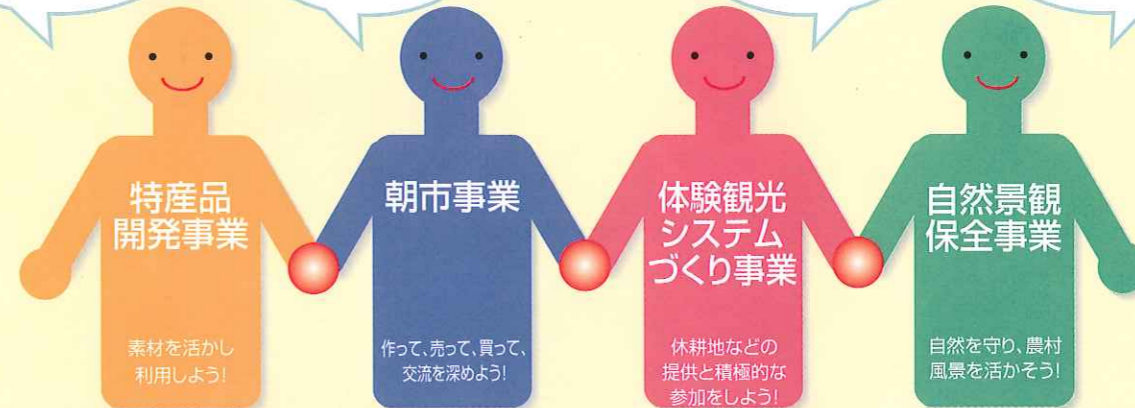
■キンニャモニャブランドづくり事業

- 地元の素材を活かした商品開発
- キンニャモニャを活かした祭りの開催
- キンニャモニャキャラクターやグッズの製作

- しゃん山の野菜
- 魚貝類
- 趣味の作品
- 地場産品の地元消費の推進

- 季節感を味わうイベント
- 農業体験
- 観光漁業

- 景観保全地域の選定
- 農村景観の保全



プロジェクト-3.]

健康が一番事業

海士の豊かな自然をたっぷり楽しみながら、誰でも気軽に健康づくりができる、そんな明るい福祉と保養の環境を整えようと思います。町民みんなで作る、人と自然と施設が心地よくリンクする未来予想図。町民みんなが参加して、町民みんなの力で実現させ、そして、町外の人々にも広く開放する、活気ある健康的なまちを目指します。

あま心

生活水準が大きく向上した現在、多くの日本人の関心は「健康」に向いています。こうした社会的ニーズを受け、身体を癒せる環境・心を癒せる環境づくりを追求することとし、保健福祉センター「ひまわり」、海士温泉「承久の湯」、宿泊滞在施設などの既存施設を有効活用していきます。

また、本町は糖尿病対策が充実しており、その管理システムを活かした健康づくり事業を構築するとともに、これに基づく健康体験実践プログラムを作成します。

さらに、町内宿泊業者には、地元食材を使った健康食メニューの導入を促し、安心して食べられるメニューの提供を図っていきます。

このように、人々の保健と保養に対するニーズを満たす総合的な体制づくりを進め、海士の自然を楽しみながら健康づくりができる環境を提供していきます。

滞在型健康体験実践プログラム

マンパワーの確保と既存の施設を有効活用することで、交流型保健・保養サービスを実施します。

滞在型健康体験実践プログラム(案)

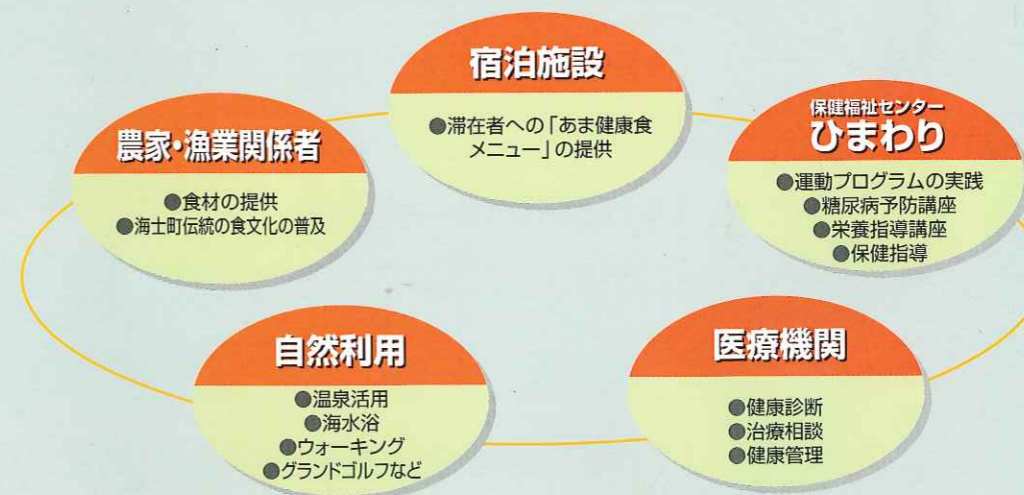
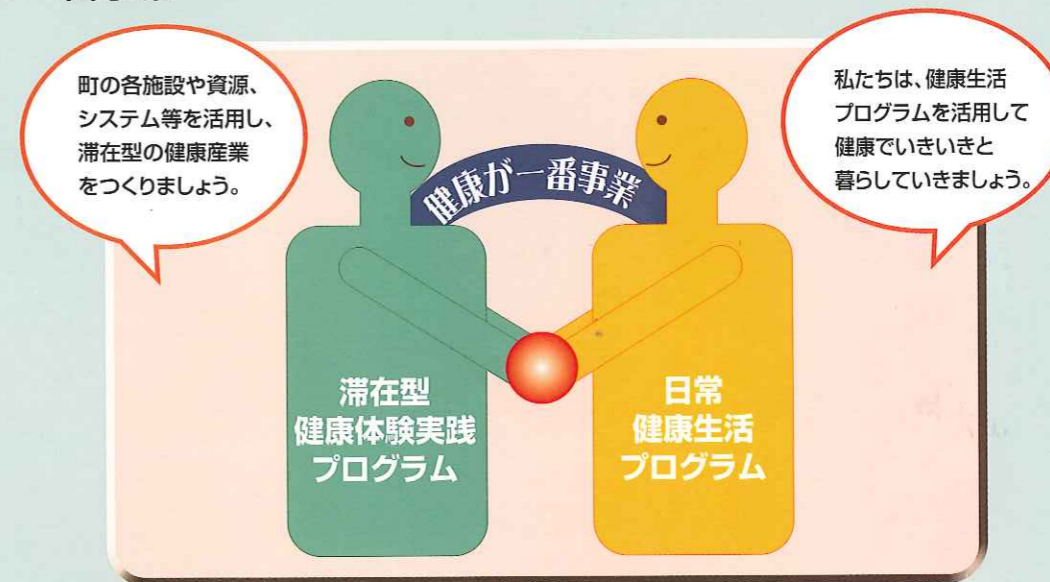
- 「ひまわり」の入浴施設 プール 多目的ホール等を使った運動プログラムの実践
- 糖尿病予防講座、栄養指導講座、保健指導など教育講座のメニュー化
- 海士の自然を楽しめるウォーキング等の軽スポーツメニューづくりと実践
- 滞在者のための「あま健康食メニュー」の提供



だれもが利用できる健康生活プログラム

住民が日々の暮らしの中で気軽に利用できる健康生活を支えるプログラムを開発・提供します。

健康が一番事業

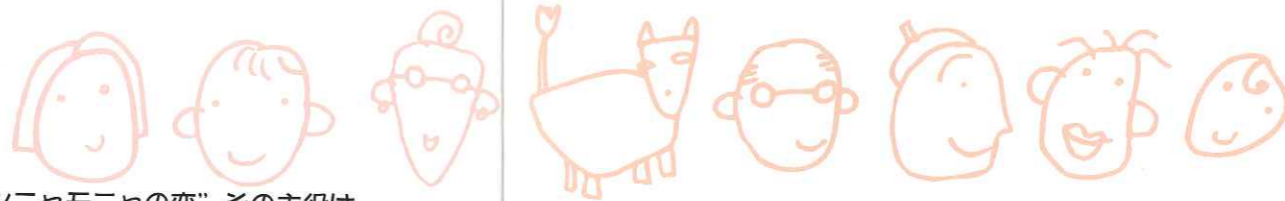


2つの事業の推進ポイント

マンパワーの確保と町内各施設の連携・協力の強化を進めるとともに、各々の施設を十分活かしながら相互に連携させる事業展開を行うために、積極的な民間活力の導入を図っていきます。また、効果の高い事業展開を図るため、各種医療機関への協力を仰ぎ、連携体制の強化に努めます。さらに、事業実施において施設整備の必要が生じた場合は、優先度と事業効果を十分に検討した上で対応していきます。

シンボル事業の構成

我がまち海士を、より暮らし良い町に、より誇らしい町にするために、動き出した「キンニャモニャの変」。その主役は、私たち町民一人ひとりです。このまちに生き、このまちを大切に思うみんなの心と力が、新しい海士町を創ります。



計画推進体制

〔-----は事業間の連携性を示しています。〕

キクラゲチャカポン計画

あま学
カレッジ開校事業

(1) あのもんだわい事業(達人づくり)

(2) 人材を育てる体験カリキュラムづくり

あま市

キンニャモニャ
ブランドづくり事業

(1) 朝市事業

(2) 特産品開発事業

(3) 体験型観光システムづくり事業

(4) 自然景観保全事業

あま心

健康が一番事業

(1) 滞在型健康体験実践プログラム

(2) だれもが利用できる健康生活プログラム

プロジェクトチームの設置

第三次海士町総合振興計画の着実な推進を行うためには、計画管理とともに、計画推進母体の確立と積極的な活動が求められます。特にソフト事業の実施については、その内容によって既存の行政機構では十分対応できないことも考えられます。そこで、事業実施にあたっては、時として現在の課制による事業実施に限らず、計画推進室など、プロジェクトチームの設置を含め、柔軟な対応を想定することとし、行財政改革と併せながら、シンボル事業の推進のために必要な体制を整備していきます。

事業展開に向けた拠点施設の整備と組織の設立

各事業の実施にあたっては、第一に町職員を含めた住民の意識改革が必要であり、事業の目的やその目標についての徹底した説明が必要です。また、具体化された事業を展開していくためには、民間団体や個人、行政が一体となった組織づくりが必要です。

当初2~3年は、体制の整備を図りながら各種まちづくり事業を展開していくこととします。この間、事業の拠点となる場「キンニャモニャセンター(仮称)」の整備を進め、各事業の情報収集、運営母体の強化促進、事業内容の検証などシンボル事業推進のための必要条件を確立し、事業を展開していくこととします。

キンニャモニャセンター(仮称)は、行政と民間が一緒になってつくるソフト事業の運動体の拠点施設であり、キクラゲチャカポン計画の中核として機能するものです。

これからの海士を創るために知恵を絞った「キンニャモニャの変」は、いかがでしたか？

町民のみなさんの知恵を結集した前計画を受け継ぐこの計画は、町民のみなさんと行動を起こすことで地域を変える力になるのです。その合い言葉が「キクラゲチャカポン持って来いよ」です。このフレーズに織り込まれた協力のこころ。それは、1島1町の誇りとともに、私たちの暮らしのなかに育まれてきた目に見えない財産です。海士町が変わるために、みなさん一人ひとりの情熱と行動が今こそ必要なのです。

地域は、これから厳しい時代に突入します。こんな時代だからこそ、行政と住民の連携がいっそう大切になってきます。

暮らしやすく豊かな海士町を目指し、行政と住民がともに手を携えて、勇気を持って地域の変革にチャレンジしましょう。





平成11年3月

第三次海士町総合振興計画・ダイジェスト版

発行/島根県隠岐郡海士町

島根県隠岐郡海士町大字海士1490番地

TEL(08514)2-0111 FAX(08514)2-0208

